

女性農業者の農政懇談会開催を支援

～女性農業者の能力を農政・地域農業活性化に活かす！～

西中 佳子（西三河農林水産事務所農業改良普及課）

【平成25年12月10日掲載】

【要約】

近年、女性農業者主催の農政懇談会は、活躍する女性農業者の認知度の向上、農政への要望伝達の場の創設、女性農業者の発言力向上、地域を動かすための人脈拡大などを目的に各地で開催されている。

平成17年から現在まで、主に農村生活アドバイザー組織を対象として農業改良普及課が懇談会開催を支援してきた取組をまとめて整理したところ、懇談会実施後に農業委員や農業協同組合理事、各種農業関係委員、その他委員に登用され、女性農業者の活躍の場が広がり数多くの場面で地域へ新たな風をもたらしていることが明らかとなった。

1 はじめに

日本の全人口における労働者人口の減少への対策として、女性の社会進出が国の施策として進められている。平成9年の改正男女雇用機会均等法、平成11年の男女共同参画基本法が制定されて以後、社会で活躍する女性の割合は飛躍的に高まっている。

愛知県の農林水産分野における男女共同参画推進の初の基本方針としては、平成6年3月に「あいち農山漁村女性プラン」が策定されている。これに基づいて、女性農業者の知事認定制度の創設、女性農業者の経営参画及び社会参画を推進しており、平成23年度からは「新あいち農山漁村男女共同参画プラン」へと引き継がれている。農政懇談会は、方針決定の場に男女がともに参画し、農林水産業の振興に寄与するための重要な取組の一つである。

2 懇談会の計画から実施までの進め方

(1) 懇談会の計画

農村生活アドバイザー役員会で懇談会の目的及び懇談先を選定する。

懇談先の担当課へ懇談会への出席依頼及び内容について調整する。

市町長、農業協同組合長等に依頼する場合、概ね6ヶ月前に日程を決定する必要があるため、年間事業として予め位置づけておく。

会員への通知は通常の行事よりも早い2～3か月前に行い、周知徹底して確実に出席者を確保する。

開催1か月前には、目的や提言内容に即した会員の意見集約を図る。

開催数週間前に懇談会の相手に対して懇談会の資料を準備し、事前に説明を行う。

(2) 当日の日程と役割分担（表1）

表1 懇談会当日の一例

時間配分	内容	役割分担
1分～	主催者挨拶	会長
	進行	副会長
2分～	組織紹介(初めての場)	副会長、もしくは他の役員
45分～	意見発表	全員、もしくは事例発表者(一人2分程度)
45分～	意見交換	相手方の講話、回答及び意見交換
2分～	まとめとお礼	会長
90～120分		

(3) 発表方法

農業改良普及課では、今までに市町長、農業協同組合長、農業委員会、市町農務主務課との懇談会の開催を支援してきた。懇談会では目的に応じて発表や意見交換方法を選択する。市町長の場合には、全員が自己PR（一人当たり2～3分）する方式、農業協同組合長、農業委員会、市町農務主務課の場合にはテーマを決め全員の意見を集約する形で代表者が発表する方式や経営面で先進的な取組を行っている人が発表する方式を採用するなど、懇談する相手やテーマによって臨機応変に形式を変えている（表2）。

(4) 懇談会テーマの設定

テーマは、組織の活動内容や農政の時流等を考慮して「女性農業者の社会参画の推進」「6次産業化に対する取組」「女性の農業経営における役割」「後継者育成」としてしている。ここで愚痴や苦情を一方的に発言することにならないよう配慮し、今後市町、農協等との連携を深める、あるいは、女性農業者の視点から地域農業の振興に対する提言となるよう内容を選定している。

表2 懇談会の計画から実施まで（まとめ）

懇談会対象	日程調整	文書 発送	依頼 内容	組織紹 介	時間	発表形式		テーマ の有無
						全員	代表者	
市町長	半年前	2 か 月 前	講 話	初回 の み	90～ 120分			
JA組合長								
農業委員会	数ヶ月前							
市町農務主務課など								

3 懇談会の成果と今後への期待

(1) 成果

懇談会を開始した平成17年度から平成24年度までの農業委員及び農協理事の数を愛知県全体で比較すると、女性農業委員は55名から91名と36名増加し、女性農業委員の割合は3.8%から7.5%と3.7%上昇した。農協理事においては、8名から39名と31名増加し、女性理事の割合は1.4%から7.4%と6.0%上昇した。

懇談会を開催することによって、懇談会を立派に成し遂げるために組織の団結力が高まり、懇談会の出席率が高くなるといった組織的にも大きな効果があるだけでなく、会員個人においても名刺を持つことで「誰々の奥さん」から「私」へと社会での立ち位置が変化し、人脈拡大につながった。また、農政を学ぶことで見聞の拡大につながり、テーマに応じた意見内容を考え、意見交換することでプレゼンテーション技術が高まるといった効果も明確になった。

(2) 今後への期待

今後も、女性農業者の活躍の場を広げるため、農政懇談会が自主的に、また継続的に取り組まれることが望まれる。「立場が人を育てる」との言葉があるように、一歩踏み出すことで世の中の見え方が変わり行動が変わっていく。物事を動かすには「政治力、組織力、発言力」が必要だと言われており、このような取組を通し、今後の女性農業者の更なる輝きと活躍が期待される。



図1 JA西三河組合長と語る会



図2 岡崎市農政学習会

Copyright (C) 2013, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.